



はっとう 八東小

【学校名】 八頭町立八東小学校
【所在地】 八頭町富枝6番地1
【校長名】 谷口達哉
【児童数】 128人

【学校教育目標】 ふるさを愛し 志を立て たくましく 生きる子供の育成
【めざす児童像】 つながる子 うみだす子 やりぬく子

【沿革】

平成29年に旧八東町にあった安部小学校、八東小学校、丹比小学校の3校が統合し、現在の新しい八東小学校となった。新たな歴史を歩みだした開校5年の学校である。



八東小公認キャラクター エイトリックン

ふるさとの魅力発見

6年生は2021年5月から、「伝えよう！ふるさとの魅力」をテーマにした「総合的な学習の時間」で、町内各地の魅力を再発見してきた。学習の成果を詰め込んだ紙面を通じ、ふるさとの魅力を伝える。

五感で森を感じる 八東ふるりの森 SDGsへの学び深める

6年生は2021年7月2日、八東ふるりの森で八頭町などの機能について教わる学習を行った。鳥取県環境大のとはSDGsに取り組みこと甲田紫乃先生に、森の機能や持続可能な開発目標(SDGs)の「こと」についてお話をうかがった。



ブナの木を見上げる児童たち

遠見山の登山道の途中に、珪石採掘遺構があった。珪石という耐火レンガの材料を掘るために、昭和初期の約80年前に使われていたものだ。

登山道に産業遺構 珪石採掘の歴史味わう

遠見山の登山道の途中に、珪石採掘遺構があった。



巻き上げ機を見上げる児童たち



頂上で集合写真

6年生は2021年10月6日、遠見山(標高805.9m)に登った。登山しながら馬酔木の会の人の話を聞いたり、登山を楽しむだりした。馬酔木の会の人は「遠見山はこの地域のシンボル。その遠見山を守ってほしい」と話された。

地域のシンボル 遠見山 動物の生活の「跡」間近に

6年生が作った新聞です。



夕場を見ながら登山する児童たち

昭和の面影を残す若桜鉄道

若桜鉄道の八東、安部、丹比の駅は、国の登録有形文化財になっている。登録された三つの駅は、人々の生活の中で親しまれ、昭和の時代の様子が残されているという理由で評価された。



カーネギー社のレールの柱



八東駅に展示してある「ワフ」

八東 安部・丹比 国有形文化財の駅

安部駅は1991年に映画のロケ地になった。関係者が、記念に桜の木を植えられた。そして毎年春になると桜の花が列車からきれいに見える。丹比駅には、1911年にアメリカのカーネギー社から輸入したレールでできた柱がある。この柱は当時のまま残っていて、歴史を感じることができる。

ふるさを元気に

地元の人々の思いに触れて



安部駅で矢部さんにインタビューする児童たち

編集後記

この学習で苦労したことは、天候だ。遠見山登山のときには雨が降って景色が見えにくくなり、ふるりの森でも雨が降り、野外の活動ができなくなってしまった。また、若桜鉄道の駅見学では暑さで大変だった。

遠見山登山は苦しかったけれど、あきらめずに登り切ることができた。この学習を通して、今まで知らなかった魅力に気づき、言葉で表現できるようになった。さらにふるさとの魅力を伝えられるようになっていきたい。

ふるさとの魅力を学習しても、若桜鉄道を続けていける環境をつくらなければならない。若桜鉄道が動いている。馬酔木の会の皆さんは「地域を元気にしたい」という思いで、園の松下聡子さんなど多くの人を登山道の整備や看板の付け替えにインタビューした。6年生は変なことに登山道を整備しながらインタビューした。登るだけでも大変な活動だと感じた。松山さんは「八東でフルーツを作る人が減ってきている、ここの八東のフルーツを作り続けたい」という、強い思いを持って動かれていると分かった。